

# 小学校だより

Vol.134



## 「カリキュラム・マネジメント」と「アクティブ・ラーニング」

校長 森 和久

最近の教育界の流行語は、まさにこのタイトルの二つの言葉です。

「カリキュラム・マネジメント」は、学校のカリキュラムを創意工夫して編成し、実施・評価・改善し続けていくことです。予測困難な時代を生きる子どもたちだからこそ「何ができるように」といのか、「何を学ぶべきか」「どのように学ぶべきか」を見極め、教育内容や教育方法を考えていかなければなりません。

「アクティブ・ラーニング」は、「どのように学ぶか」の一つの考え方で、受け身で、与えられた知識を覚えるだけの学びではなく、「自分でじっくりと考え」、「人の考えと自分の考えを照らし合わせ」、「追究すべきことがらをよく達成する」というような学び方が求められています。

今、新しい学習指導要領の編成作業が進められていますが、この二つは「目玉」とも言えることです。本校においても、この考え方をいかに具現化していくかを検討しているところですが、この小稿において申し上げますが、こ

とは、「家庭教育の指針にもなるのではないのでしょうか」ということです。

家庭教育において「カリキュラム」が自覚的に作成されているということはあまりないとは思いますが、それでも「何ができるように」といのか、「何を学ぶべきか」「どのように学ぶべきか」ということをお子様の意向も聞きながら、家庭でのしつけはどのようにするのか、学習はどうするのか、習い事はどうするのかということを考えていらつしやることだと思います。本校を選択していただいたこともそうですし、これからの進路についてどう考えるのかも、まさに家庭教育の「カリキュラム・マネジメント」と言えるのではないのでしょうか。

未来の創り手として必要な資質・能力を育てていくために家庭ですべきことは何なのかということを、お子様の考えを大切に、学校や社会と連携しながら考え続けていく、不断の検討を重ねていくということが大切なのではないかと考えます。

また、家庭での学びにおいても

「アクティブ・ラーニング」は、重要な視点となると思います。そもそも集団での一斉学習を前提としない家庭での学びは、一人一人の課題意識に応じやすいという特性があります。疑問に思ったことを自分で調べる、より上手になりたいと思ったことに継続的に取り組む、同じことがらを追究する仲間と協力して取り組む、そのような経験を通して、主体的で、協働的で、深く学ぶことのできる「アクティブ・ラーナー」を育てたいものです。

「学校教育」での話題を「家庭教育」に広げて考えましたが、「生涯教育」にもつながることだと思えます。生涯学び続ける大人たち、つまり私自身にとっても、自分のこれからの学びに対する「カリキュラム・マネジメント」と学び方としての「アクティブ・ラーニング」は心がけなければならないことだと思っています。自分の学びのあり方を棚にあげないで、学生に、子どもたちに、教えなければならないと肝に銘ずる次第です。

## 特集 ブルキナファソとの交流 P2

学期のトピックス P3 / 委員会・部活動報告 P4 / 学期の記事 P5

学年トピックス P6~P17

PTA P18、P19 / 職員の諸活動・学園トピックス・編集後記 P20

CONTENTS